



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	特別な支援を要する児童・生徒の学校適応に向けたアセスメント：学校適応スキルと特別な支援ニーズの検討(論文要旨)
Author(s)	熊谷,亮
Citation	
Issue Date	2017-03-23
URL	http://hdl.handle.net/2309/147689
Publisher	
Rights	

氏 名 : 熊谷 亮
専攻分野の名称 : 博士 (教育学)
学位記番号 : 博甲第286号
学位授与年月日 : 平成29年3月23日
学位授与の要件 : 学位規則第4条第1項該当 課程博士
学位論文名 : 特別な支援を要する児童・生徒の学校適応に向けたアセスメント
—学校適応スキルと特別な支援ニーズの検討—
論文審査委員 : (主査) 教授 橋本 創一
(副査) 教授 朝倉 隆司 教授 堀田 香織
教授 林 安紀子 教授 眞城 知己

学位論文要旨

発達障害児の支援を展開する際には、障害による行動特性に加え、一人ひとりの教育的ニーズを把握した上で、より優先すべき事柄に重点を置いて支援を行うことが求められる。また、特別な支援が必要な子どもの中には医学的な診断名のない者も多く、不適応行動も複合的な要因によって引き起こされる。そのため教育的介入の視点を持つことが難しく、スキルの獲得状況や特別な支援ニーズの両側面を包括的に評価するアセスメントが必要であった。また、中・高校生になると自己と他者との比較により自分自身の特性や支援ニーズについて評価することが可能となってくると考えられる。生徒本人が評価することで、周囲の大人が気づくことができなかつたニーズを明らかにできると考えられる。また、本人が自覚している支援ニーズを把握することで、子ども自身が自分の特性に気づき、自分に合った学び方や学習量、人とのかかわり方を調節するなど、より効果的な支援を展開することにつながると考えた。

そこで本研究では、特別な支援ニーズのある子どもの学校適応へ向けたアセスメントを行うとともに、支援方法を検討することにより、アセスメントから支援までの一連のシステムモデルを構築することを目的とした。そのために、支援者は子どもの特別な支援ニーズをどのように理解し、支援の重点をどこに置いているのかを明らかにした。そして、他者評定および自己評定によるアセスメントツールを活用した特別な支援ニーズのタイプ分類を通して、支援の在り方について検討する。そして、他者評定および自己評定によるアセスメントを活用した支援について検証した。

第Ⅰ部では、発達障害児における特別な支援ニーズおよび支援の重点目標、支援内容について、特別支援学級の教師を対象とした調査によって検討をした。その結果、発達障害児支援において障害名によって導かれる行動に支援の重点を置いている一方で、個別の困難性が見過ごされている可能性が認められ、子どもの支援ニーズを詳細に評価して支援の方針を決める必要性が示唆された。

第Ⅱ部では、他者評定式のアセスメントツールを用いて、特別な支援が必要な児童・生徒の学校適応スキルや特別な支援ニーズのプロフィール分析を行った。第2章では、発達に遅れや偏り

が疑われる児童・生徒を対象に、第3章では、小学生の発達障害児を対象に、学校適応スキルと特別な支援ニーズを評価するASIST学校適応スキルプロフィールを実施した。その結果、学年や障害名、知能の程度、スキルの獲得状況から個々の支援ニーズを予測することは難しく、学校適応スキルや特別な支援ニーズの両者を別々に評価してアセスメントする必要性が示唆された。また、個々のプロフィールのタイプとして、スキル獲得に遅れはあるものの特別な支援ニーズの低いグループ、多動性・衝動性や不注意の強いグループ、内在化タイプのニーズが高いグループ、外在化タイプのニーズが高いグループなど、様々なタイプに分けられ、それぞれの特徴に応じた支援を行う必要性が示された。

第Ⅲ部では、中・高校生を対象に本人が自覚する特別な支援ニーズについて検討した。第4章では、中学生を対象に自己評定式のチェックシートを実施し、中学生本人が自覚する特別な支援ニーズと学業成績、特別な支援の必要性についての教師の気づきの有無との関連性を検討し、他者による評価に加え、本人による評価も併せて行うことにより、不適応症状が顕在化する前に早期発見し、予防的な支援を開始することが可能となることが示唆された。第5章では、過去に不登校経験のある高校生を対象に自己評定式のチェックシートを実施し、自覚する支援ニーズの程度によって3タイプに分けられ、不登校経験者における支援ニーズの低いグループの生徒は、未経験者と同程度の支援ニーズであったものの、感覚の過敏さに関する支援ニーズが高く不登校経験者の特有の支援ニーズであることが示唆された。

第Ⅳ部では、第Ⅰ部から第Ⅲ部で得られた知見をもとに、学校適応スキルおよび特別な支援ニーズの評価に基づいたアセスメントおよび支援を実施し、アセスメントに基づいた支援計画の有効性を検討した。第6章では、発達に遅れや偏りが疑われる児童を対象に、他者評定式のアセスメントシートを活用した縦断的支援を行った。また、第7章では、中学生の発達障害児を対象に、自己評定式の特別な支援ニーズに関するチェックリストの活用および本人と協働した支援方針の検討を行った。アセスメントと支援事例の結果、学校適応スキルと特別な支援ニーズの両者を評価することで、行動上の問題の背景が明らかになり、支援の方向性の選定に有効であることが示唆された。また、本人が自身の特別な支援ニーズに関するチェックシートに評価をし、本人と支援者が協働して支援の方針を決めることで、本人が抱えている支援ニーズが明確になり、本人にとって最適な方略で支援を展開することが可能になることが示唆された。